

エリザベス 1 世 (1533-1603)

1558 即位

《女王、即位当初の課題》

- フランス問題：大陸領土の放棄、ユグノーへの支援
- スコットランド問題：フランス軍が駐留、女王がフランス王妃、プロテスタントの不満
- 宗教問題：カトリック回帰の拒否、ピューリタン台頭への警戒

《国際情勢》

1562 ユグノー戦争開始：フランス内戦状態

1568 オランダ 80 年戦争開始：独立運動をスペイン弾圧

1571 レパントの海戦 1580 フェリペ、ポルトガル王に：スペイン全盛時代

《1585 年の転機》

5 月 フェリペがイギリス船を捕獲

6 月 フランスの後継王がスペインの影響下に

8 月 イギリスのオランダ派兵、ドレークのスペイン船襲撃を許可

○オラニエ公ウィレムの暗殺、王弟アンジュー公フランソワの死去：オランダのリーダー不在

○フランスカトリック同盟とスペインの接近（アンリ 4 世の即位を阻止）

○スペインのオランダ作戦

1588 アルマダ海戦

レスター伯とウォールシンガムらの多数派はつぎのように予言した。フェリペはネーデルランドを押さえてのち、その全港湾を利用し、そこに集結された富、陸兵、艦船のすべてをあげて、かねてからの「イングランドへのたくらみ」を実施に移すであろうと。彼らは、オランダ人が「イングランドの戦い」を戦っているのだ、と主張した。

しかし、バーリー卿ら一部の考え方は、それと異なっていた。彼らは指摘した。オランダ人は反徒であり、フェリペはほかの君主でも当然することをしているに過ぎないのだ、王が自分の治める版図内のプロテスタントに残酷な迫害を加えたのは事実であるとしても、その王が他の君主の領域内に信仰のための十字軍をおこそうとする熱意を示したことがあるだろうか、他方、同盟諸州の軍隊にはしっかりした指導者もなく、自分たちの財布のひもをなかなかゆるめようとしない、彼らを助けてフェリペとの戦争に突入するよりは、それだけの費用を使ってイギリス自体の防備を固めるに若くはなし、と。

むろん、エリザベスは後者のほうの意見に賛成し、一五八五年の初夏に至るまで、今までの微温的政策を改めることがなかったのであった。（植村雅彦、エリザベスとその時代より）





